

# タテトラ2014救護アンケート報告

タテトラでは、より安全で楽しい大会にするため、毎年救護班によるアンケート調査を実施し、結果を報告しています。2014年のタテトラでは、リタイアや救護利用をした方にどんな要因があるかについての調査を行いましたので、結果をご報告いたします。

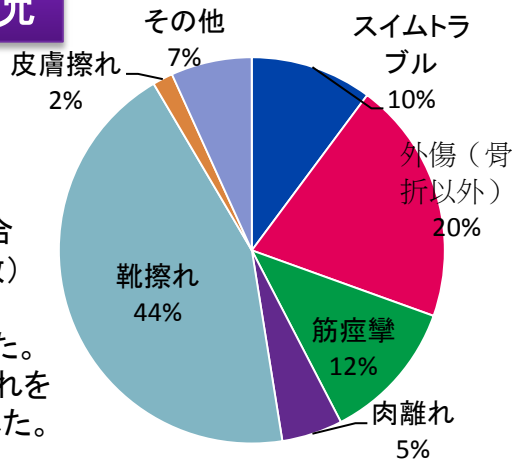
## タテトラ2014 当日のコンディション

2014年6月29日(日曜日)  
 当日の天候: 雨のち曇  
 最高気温: 28.3℃ 最低気温: 21.4℃ 平均湿度: 87% 水温: 22℃  
 平均風速: 2.3m/s 最大風速: 4.5m/s エントリー: 1126人

## 救護所利用状況

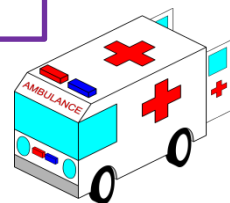
救護利用者: 59名  
 救急搬送: 1名  
 (スイムで海水を飲んだ)  
 当日受診: 2名  
 (顔面挫創、両膝挫創で縫合  
 とともにバイク乗車中の事故)

ほとんどが軽症の受診でした。  
 特に、靴下を履かずに靴ずれを  
 起こした参加者が多くいました。



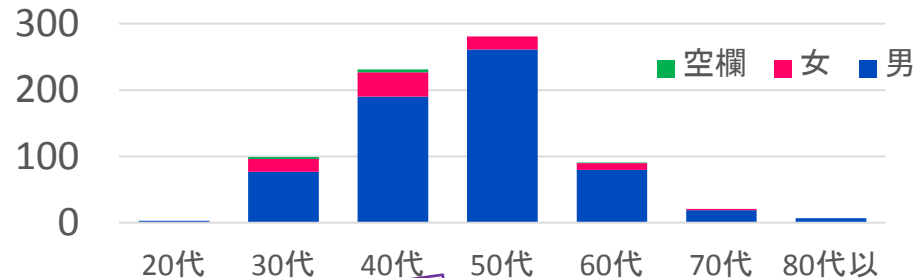
## アンケート概要

	出走者	救護利用	リタイア
	818人	51人	18人
有効回答数	718人	41人	14人



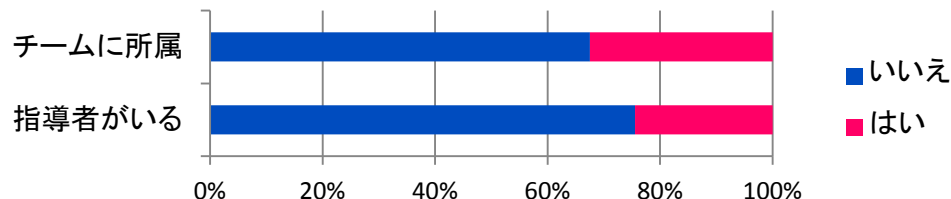
※今回の詳細の解析には、スプリント・オリンピックディスタンスのデータを使用

## 参加者の年代別分布



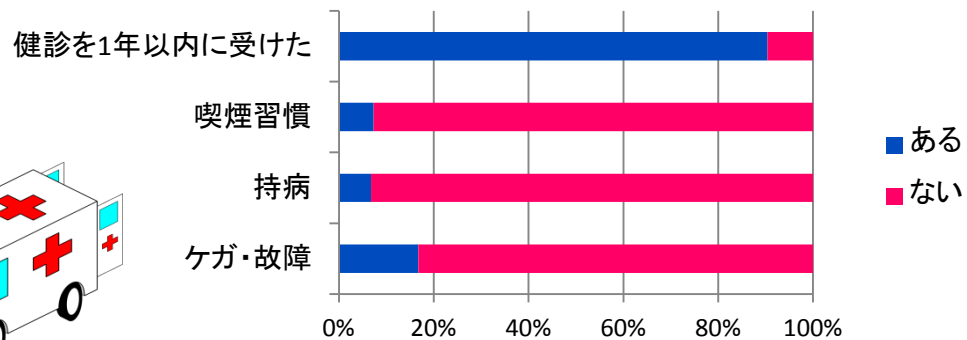
参加者の多くが40代、50代でした。

## 練習環境



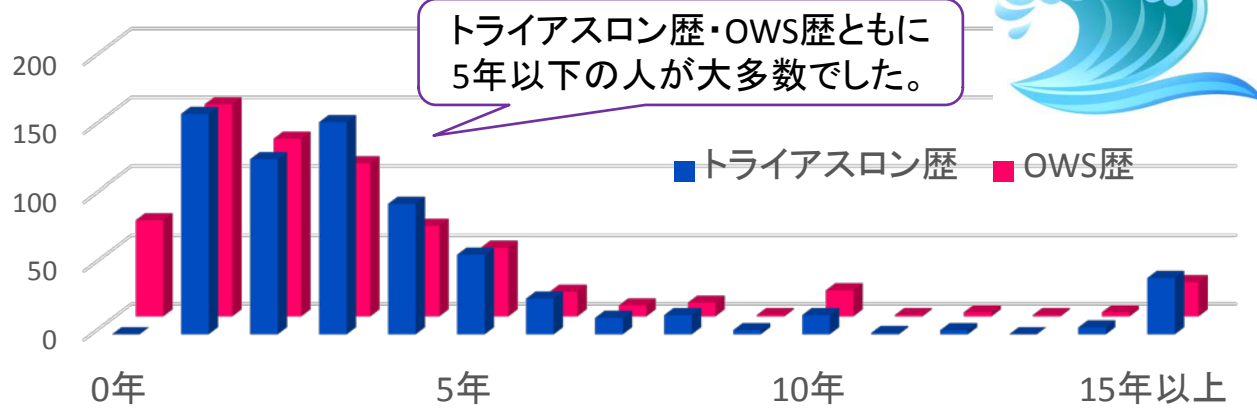
チームに所属せず、指導者もない、  
 個人で練習している人は約60%でした。

## 参加者の健康状態



1年以内に健診を受けずに参加している方が約10%  
 いました。健診は必ず自分の責任で受診しましょう。

## トライアスロン・OWS(オープンウォータースイム)歴



## アンケート解析結果

		A(リタイアか救護を受けた)	B(リタイアか救護を受けていない)	統計学的有意性
チームに所属	解析①	相対リスク1.99(チーム所属している方が、救護ORリタイアが多い)		P<0.05(χ二乗検定)
年齢	解析①	39.10歳	41.97歳	p<0.05
OWS歴	解析②	1.75年	3.48年	P<0.05
OWS歴	解析③	1年	3.49年	P<0.05
OWS練習回数	解析③	1.14回	3.24回	P<0.05

※解析は①リタイアまたは救護利用、②リタイアまたは救護利用、③②かつスイムでのトラブルに限定の3通りで実施。解析方法等の詳細は省略。

「チームに所属している」「年齢が若い」「OWSの経歴と練習回数が少ない」方が、リタイア・救護利用している傾向にあり、これらはトライアスロン大会中の事故・傷害等の要因である可能性があります。  
「チームに所属している」方が救護・リタイアが多いのは、重大事故となる前に早期にリタイアを決断できている、という可能性もあります。

## まとめ

今回の調査結果から、特にOWSの経験が少ないことが、リタイア・救護利用と関連がある可能性が示唆されました。タテトラ2014では幸いにも大きな事故・傷害の発生が少なく、今回の調査のみで結論付けられるわけではありませんが、過去には類似の調査はなく、今後も更に調査をすすめる必要があると考えます。

トライアスロン競技人口が増える一方、命に関わる重大事故も増えています。重大事故はスイムに集中しています。初心者の方が多く大会に参加し、中にはOWSの経験が不十分な方もいることとでしょう。今後、OWSの講習会や練習会が多く開催され、参加者の皆様がOWSの経験を十分に積むことで、少しでも事故の少ない安全な大会が運営できればと思います。

タテトラ2015では、スイム・OWSに関して更に詳しく掘り下げるアンケート調査を実施させていただきます。参加者の皆様には、大変お手数をおかけしますが、ご協力をいただけますと幸いです。

なお、本調査結果は、2014年11月に第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会で一般演題として発表し、今後論文化を予定しております。